

名前:早乙女 一華

高校3年生、4月1日生まれ 18歳

陸上部に所属しており、種目は短距離の100mと200m

学校は普通の公立高校で、強豪というわけではないが、2年生の時は全国大会まで出場した。

表向きには明るく元気でひたむきに、真っ直ぐなスポーツ少女を演じている。
実際はまあまあな腹黒で、口も悪いし、人を見下す癖もある。

接骨院と言って結構な頻度で練習をサボったり、他校の柄の悪い集団とカラオケやら夜遊びをちらほらしている。

陸上は大学の推薦を取るためと、自分の存在価値を高めるためだけに行っており、陸上は別に好きじゃない。本人曰く走るだけでつまらないとのこと。

・家庭環境

3つ上の姉と、父、母の4人暮らし。

共働き、両親は共に名門大学卒業生で、そこそこ教育熱心な家庭。

姉は要領が良く、地域でトップクラスの高校に入学、そのまま大学も偏差値高めの県立に合格。
反面妹の一華ちゃんは要領が悪く、優秀な姉と比較され、家に居場所がなかった。

・陸上を始めたきっかけ

中学生の頃はバスケット部に所属していたが、球技が苦手で、距離感がつかめず補欠部員だった。

体力測定の際に、たまたまタイムを計測していた陸上の先生に試しに大会に出てみないかと誘われ、小さな大会だったが、入賞した。

元々勉強も苦手、球技も中途半端だったため、初めて自分が人より優れている才能を見つけ、それにすぐるように陸上を始める。

正式に陸上部に所属していなかったため、高校は一般受験をし、平均的な公立高校に進学した。

高校で大会で入賞をし、大学推薦の話がきたタイミングで両親は手のひらを変えて、娘を賞賛するようになった。

家庭に受け入れられた喜びと、自分をステータスでしかみてくれてないことを改めて知った悲しみが相反して、とても複雑な感情を抱えることになった。

・表向きに明るく演じてる理由

一応周囲の評判を気にして、うまく演じているつもりだが、根底は過去の経験からきている。中学に上がったあたりの頃、親の影響で勉強に励むも平均かちよい下くらい、身体能力は高かったが球技が苦手なため体育もさほど飛び抜けていなかった。

そんな中、スクールカーストという概念がうっすらと出来始めた頃、自分が若干孤立気味になっていることに気づく。

家には居場所がないため、もう一つの学校で居場所がなくなることを恐れた彼女は明るく、純粋無垢な少女を演じることにした。

明るく、愛想よく笑っていれば多少劣っていても可愛げがあり、周囲から好かれやすいため中学時代から常に愛想の仮面を被っていた。

・腹黒な性格について

上記の性格は一部の人間に舐められたり、馬鹿にされることがあった。また常に演じ続ける気力や、家庭環境のストレスの蓄積で、腹黒で歪んだ性格が徐々に頭角を現した。

また親の教育で幼少期から競争を強いられてきたため、陸上を始めてからは他者を見下すようになった。

小学校までは大人しく、本が好きな心優しい女の子だったが、思春期の強いストレスや影響を受けたため、自身のアイデンティティや性格が変わってしまった。

・練習をサボる動機

単に練習がめんどくさく、サボっている一面もあるが、根底にはひたむきに頑張ることを恐れている。

過去自分自身が努力しても成果が出ず、親から呆れられ、失望された経験があるため、手を抜くことでどこか本気ではなかったという逃げ道を用意していた。

現実逃避的な一面もあったと思う。